農林・観・商を元気にする

自然の恵みで

高原野菜、カラマツ林、体験型宿泊施設…
朝日村ならではの資源を最大限に利用し、
積極的な産業振興策で活力のある村づくりをしていきます

農業振興 現状と将来の構想

朝日村は、豊かな土壌、豊富な農業用水、恵まれた自然を活かし、農業を基幹産業として発展してきました。今ではレタス、白菜、キャベツなどの高原野菜で県内有数の産地になっています。

今後も優良農地の確保・保全、遊休荒廃農地発生防止、農業生産基盤の充実等を進めながら、担い手育成・確保に努めるとともに、生産組織、農業団体、関係機関が連携し、食の安全・安心と環境に配慮した農業づくりを進めていきます。

地方創生加速化交付金及び推進交付金を活用し、新たな農業と担い手創出事業を5年計画で推進中。農業分野の生産、資材、加工、販売などを含め、総合的な農業経営の実現を図るアグリ・ビジネスセンターの設置を目指しています。

カンロ(株)朝日工業

あさひプライムコテージ

JAハイテク野菜苗センター

野俣沢林間キャンプ場

林業の復活 現状と将来の構想

朝日村の面積の約87%を山林が占めています。その内訳は、公有林(村・財産区有林)が1665ha、私有林4493ha、の計6158ha。またカラマツを主体とした人工林の面積は、4261haで人工林率は71・1%となり県平均を大きく上回っています。

森林資源の有効活用では、カラマツ材を使用した公共施設の建築や机・椅子等の制作を推進。すでに、カラマツ材を駆使したあさひ保育園が完成しているほか、新庁舎にも活かされます。塩尻市、筑北村との連携事業では、それぞれの地域の特性を活かし、森林資源活用の仕組みづくりに取り組んでいます。先行型交付金による基本構想を基に、50%補助により、森林資源活用の実施計画づくりを、5年を目途に進めています。

観光振興 現状と将来の構想

村内にはあさひプライムスキー場、野俣沢林間キャンプ場、スケート場、マレットゴルフ場、テニスコートなどのスポーツ施設のほか、木工体験ができる「クラフト体験館」、そば打ち体験ができる「ふるさとの味体験館」などの体験施設があり、シーズン中は県内外からの来客で賑わっています。

恵まれた地域資源を活かし、宿泊施設・体験施設管理者、商工業者の連携による新たな体制づくりに取り組んでいます。また、平成28年より、施設の利用増につなげる「滞在型体験プログラム」構想を3年計画で進めています。

商業振興 現状と将来の構想

朝日村では、企業誘致を進め大きな企業が進出しています。たとえば、東京電力㈱の新信濃変電所は50Hz・60Hzの東洋一の周波数変換施設です。カンロ㈱朝日工場では、グミキャンディーを製造しており、㈱東京堂は造花・アーティフィシャルフラワー・プリザーブドフラワー等の製造、販売、物流拠点などになっています。

ヤマメつかみ取り大会

ねずこ下駄(有)三村木工

朝日村□ック.indb すべてのページ 2017/05/01 22:41

人と自然が共生する村づくり

朝日村の美しい自然環境は村民の宝です。省エネをモットーに、再生可能エネルギーを活用しながら、この自然環境を守り、地球にやさしい村をめざします。

ヤマメの稚魚放流

地区ボランティア活動による草取り作業

自然環境 朝日村の自然について

朝日村は、鉢盛山をはじめ、ハト峰、烏帽子岳などの山々に囲まれ、鉢盛山を水源とする鎖川とその支川、芦ノ池や原新田の堤等の水環境、そこに生息している多種多様な動植物に恵まれています。

東斜面の扇状の農用地は朝日村の農業を支え、美しい景観を形成しています。健全な森林、清浄で豊かな水、汚染のない土壌や大気を維持し、持続的に利用することが、将来にわたり、地域産業である農林業の振興と、美しい景観に囲まれた健やかな生活環境を守ることになります。

農林業行政と連携しながら、水環境の保全、生物多様性の保全、景観の保全に取り組みます。

循環型社会の推進

村内の外灯や公共施設の照明を省エネタイプに切り替え、環境に優しい村づくりを進めています。近年エネルギーの大量消費や資源枯渇が問題化する中で二酸化炭素などの温室効果ガスが排出されず、再生可能で地球環境にやさしい新エネルギーが注目されています。朝日村では、新規に太陽光発電、薪ストーブ、ペレットストーブを設置する方にその費用の一部を補助しています。

薪ストーブ

カラマツの断裁

太陽光パネル

野生鳥獣被害対策　防止柵

役場とスキー場には、村内の間伐材を燃料として使うカラマツ薪ストーブを設置。お越しいただく皆さんを温かくお出迎えしています。新庁舎には自然エネルギーを用いたハイブリッド暖房システムを採用する予定です。

野生鳥獣被害対策

野生鳥獣による農業被害は朝日村でも問題になっています。鳥獣被害防止として金網フェンスによる防護柵を総延長24kmにわたって設置することで、野生鳥獣と人とのすみ分けを図り、被害が減っていくことを期待しています。

フラワーロード外灯

山鳥場遺跡発掘調査

平成28年、県道中組バイパス用地と重なる山鳥場（やまとりば）遺跡の発掘調査が、長野県埋蔵文化財センターによって始まりました。

遺跡内では縄文時代中期（約5000年前）の住居跡や土器片が発見されています。朝日村ではこれまで24カ所の遺跡が発見されていますが、山鳥場遺跡には何世代にもわたって人が住み続けていたことが確認されました。縄文の昔から、朝日村は住みやすい土地であったことがわかります。

朝日村□ック.indb　すべてのページ　2017/05/01　22:42

豊かな歴史を伝え守る

古くは、遠く縄文時代までさかのぼることができる朝日村の歴史。
中世の山城や古刹、道祖神などの歴史遺産をきちんと継承し、
後世に伝えていきます

光輪寺薬師堂

光輪寺薬師堂裏石仏群

光輪寺

朝日村の歴史は古く、縄文時代（5000年～4000年前）までさかのぼることができます。縄文時代の集落跡の熊久保遺跡では100軒以上の住居跡が発見され、松本平における縄文中期の拠点的遺跡であることが確認されました。

中世の城跡もあります。長野県史跡に指定されている「武居城跡」や古見の「旭城跡」など多くの史跡が残されています。

由緒ある神社仏閣も点在し、村の人たちの信仰の対象となってきました。また石仏の種類や数が多く、庶民信仰が厚かったことがしのばれます。

武居城跡

戦国時代、豪族三村氏の築城とされる武居城は当時の山城としての面影を今に伝えています。現在は武居城跡公園として整備されており、本格的な茶室があります。

光輪寺

奈良時代に行基が開いた古薬師が始まりとされ、本尊の薬師如来立像を守る別当寺といわれています。薬師堂と日光・月光菩薩像が長野県宝に指定されています。鎌倉期に旭将軍木曽義仲の命によって再興されたと伝えられる古刹です。樹齢400年といわれるしだれ桜が有名で、境内には様々な石像があります。

古川寺（こせんじ）

古見の普門山古川寺は、永長元年（1096年）開基、永禄年間（1588年頃）、武田氏の家臣上條佐渡守信隣に再興されたと伝えられる真言宗の古刹です。観音堂の本尊は、聖観音菩薩立像で、毎年1月15日前後に開催される「厄除け観音縁日」は、村内外から大勢の方が訪れ、賑わいをみせます。

また、毎年5月3日の観音祭では、火渡りの行を修験者とともに体験することができます。

石仏・道祖神

朝日村にはさまざまな石像が残っています。光輪寺薬師堂裏の188か所仏、本郷薬師堂境内の西国33か所観音像、古川寺の石幢六地蔵、下古見阿弥陀堂跡には一石六地蔵の秀作があります。また村内にはさまざまな表情をみせる31体の道祖神があります。

武居城跡

朝日村に残る義仲伝説

義仲は木曽において平家討伐の旗揚げをし、出陣のとき、鳥居峠から烏帽子岳に達し、長峰を経て御馬越についたといわれています。

光輪寺

義仲が母小枝御前と住んでいたといわれています。本尊の薬師如来には義仲にまつわる伝承が多くあり、敷地内には 義仲が植えたといわれる義仲公手植桜があります。

義仲公園

義仲が木曽から長峰を経てこの地につき、一の厩と呼んで後続部隊を待った所だという伝承があります。 現在は祠が整備されています。

御馬越・御道開渡

義仲が木曽から長峰を越えてここに到着したので御馬越という説と鎖川の茨を切り開いて松本平を望むこ とができたので御道開渡と呼ぶようになったという説があります。

義仲公逆柳

兼平と共に洗馬の牧へ行った義仲は、御道開渡沿いの川で、太刀で切り落とした柳の枝を岩魚めがけて投げ、串刺しにして何匹か獲り食べました。その時使った柳を刺しておいたところ、芽が出て立派な柳の木になったといわれています。

足無様

いくつかの伝承がありますが、代表的なものは、幼少の義仲の所に来た巴御前が足を痛めたので、この神様にお願いすると怪我はすぐ治り、そのお礼に従者がわらじを供えたというもの。

もうひとつは、義仲の動静を探りに来た平家方の間者が木曽方に発見され、逃げてきたが、この辺りで両足が凍傷のために歩行不能となって倒れていた。発見したこの地（針尾）の人が食糧を与えて看護したが、その甲斐もなく、足病者を救うからと遺言を残して死んでしまった。不憫に思った地元の住民が遺言どおりに祠を建てて祀ると、足病者の参拝が増え、願を掛けると治ったという伝説が残っています。

義仲公園

足無様

古川寺（こせんじ）

道祖神

朝日村□ック.indb すべてのページ　2017/05/01 22:42